

チーム名	西川ゼミ（北陸Team）		大学名・学部	立教大学 観光学部	北陸ステージ
プラン名称	「北國大学」～北國（北陸）をフィールドにした観光と学びを～				
テーマ	北陸ならではの資源を活かした広域周遊型の「持続可能な観光まちづくり」				JTB賞
リーダー名	池田穂佳	メンバー名	田中満里愛、神田寛貴、坂井遥		
指導教職員名	西川亮				

1.現状認識

○ニューノーマル
・観光客視点（地域を学ぶ、地域貢献、分散型）
・地域視点（着地型、持続的、地域振興）

○魅力
①生活文化 ②自然 ③歴史的な町 ④心 ⑤温泉 ⑥食

○問題点
①観光客に若者が少ない
②伝統工芸、一次産業後継者の人手不足
③消滅可能都市が多い
④観光において回遊性がない
⑤温泉地以外の知名度が低い

2.ターゲット

①観光客に若者が少ない
→観光客は50代以上が多く、10代・20代が少ない

	観光客に占める50代以上の割合	観光客に占める30代未満の割合
富山県	47.6%	14.8%
石川県	38.7%	16.1%
福井県	51.0%	14.6%

②伝統工芸、一次産業後継者の人手不足

	昭和50年代	平成28年度
従事者数(人)	288,000	62,690
生産額(億円)	5,400	960

→北陸において重要な産業である伝統工芸産業は、全国的に後継者が不足するという課題に直面している

③④から...
自分の能力を現場で生かして、地域貢献できる場を提供すれば、大学生に需要があるのではないかと

③④から...
地域貢献できるたびに興味があるか
興味はある、32%
ぜひやってみたい、64%
興味はない、2%

③④から...
オンライン授業によって学習の実践の機会を喪失している
④大学生のアンケート結果
→地域貢献を含んだ旅行への興味を持つ人が96%いる

ターゲット=大学生

漁業経営体数の推移 (経営体)

年	富山県	石川県	福井県	合計
平成25年	301	1728	1012	3041
平成30年	250	1255	816	2321

3.プラン内容

北國大学～北國（北陸）をフィールドにした観光と学びを～

○コンセプト
「観光×学び」
○概念
・キャンパス：北陸全体 (=対象地：3県51市町村の連携)
・講師：地域住民
○理念
大学生と地域の相互関係

自分の持っている能力を使って地域貢献

大学生 ← 地域 →

地域が持つ資源で大学生の知識に貢献

○カリキュラム
・学年が上がるごとに「狭く深く」
・2コース制

北國コース	実践コース
既存の学部には該当しない北陸独自の魅力を学ぶ	大学の専門分野を北陸で実践する
伝統工芸学部 山岳信仰学部 ウィンタースポーツ学部 食学部、お祭り学部 温泉学部、自然学部 漁業学部、気象学部	建築学部 農学部、文学部 芸術学部、服飾学部 歴史学部、人文学部

○食学部
・1年生プラン(中能登町・滑川市)
・日程

1日目	3日目
11:00 中能登町 谷倉園集落 13:00 田植体験	2:00 ホテルイカ漁体験 5:00 釣り体験 8:00 朝食 獲れたてホテルイカ 10:00 仮眠 11:00 北陸ブランド米 食べ比べ 13:00 中能登町 → 滑川市 14:00 漁師から特別講義 19:00 就寝

○伝統工芸学部
・2年生プラン(加賀市・鯖江市)
・日程

1日目	3日目
11:30 小松駅到着 13:00 丸谷セラミックラボラトリーを見学 15:00 グループ別で工房へ職人と交流 18:00 丸谷焼や山中漆器を使用した料理を提供する旅館に宿泊	9:00 加賀市 → 鯖江市 10:00 漆塗り自転車でサイクリング 12:00 昼食 @うるしの里「わんわん」 14:00 うるしの里会館職人工房 19:00 民泊 21:00 感想共有

○建築学部
・3年生プラン(高岡市伏木・大野市)
・日程

1日目	3日目
11:30 新高岡駅集合 12:30 昼食終了 高岡駅 → 伏木 13:00 伏木到着 ガイドラインを頼りながらまちあるき 17:00 集まって学んだことを共有	11:00 大野市中心街 まちあるき 15:00 発表 16:00 宿泊

○3つの主体の関係
大学生 学生
各種団体(県、市) 地域資源の提供・連携
地域住民 講師

○社会的効果
大学生
・観光資源を守る意識が生まれる
・様々な地域のさまざまな立場の人と交流することで視野が広がる
・北陸に愛着が湧き移住の可能性が生まれる

地域
・地域住民が大学生と交流することで地域に活力が生まれる
・大学生に教える立場になることで地域理解が深まる
・後継者不足の解消の一因になる

4.情報発信

①教育 YouTube 講師(地域住民)紹介 事前学習
②中 YouTube 学生によるインスタライブ(実況中継)
③発信 Instagram 学生レポート投稿

5.実現に向けて

○プランの発展

	創立年数	開講学部	対象大学生の居住地
STEP 1	1~4	3	中部地方 近畿地方
STEP 2	5~8	9	本州
STEP 3	9~	16	日本全国

○経済効果

年	売上高	北國大学生数
1年目	3218	60
12年目	68651	1280

6.解決策

○ニューノーマル観光と北國大学

分散型 着地型 持続的 地域振興

地域を学ぶ 地域貢献

○問題点と北國大学

①観光客に若者が少ない → ターゲットを大学生に設定
②伝統工芸、一次産業後継者の人手不足 → 後継者育成、大学生による地域貢献
③消滅可能都市が多い → 対象地域は3県51市町村
④観光において回遊性がない → 特色ある学部ごとの広域連携
⑤温泉地以外の知名度が低い → 北陸のあらゆる魅力を学べる16学部

7.新規性

・北陸全体が対象地域
・地域住民が講師
・北國コース：北陸独自の魅力に特化した教育観光
・実践コース：自分の専門分野に特化した教育観光
・大学生の知識・能力を生かす機会の創出
・地域の観光価値を多層的な学び(メタ観光)
・他学生との感想共有による学びの深まり